

ももさと 通信

2023年
2月1日
第7号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>
E-mail momosato@galaxy.ocn.ne.jp



わんぱく教室の素敵な年末年始

くるみ教室 管理者 平原 やとみ

2022年12月、わんぱく教室で門松制作をしました。切った竹の中に、南天や松・子どもたちが折り紙で折った干支のうさぎたちを親子で賑やかに飾り、完成。作りながら子どもさんが「素敵だね〜」とお母さんに話すと、びっくりした表情を見せながらも「ほんと、素敵ね」と返し、親子で門松を眺めていました。その二つの背中が私たちにとって、とても素敵に見えました。門松を見て「素敵ね」という言葉が出たこととても嬉しうなお母さんの笑顔が印象的で、こちらもほっこりさせてもらった瞬間でした。お母さんに「すごいね！なんだかうれしいね」と声をかけさせてもらおうと「本当に！」とまた優しく笑って答えてくれました。個性豊かで素敵な門松が、それぞれの新年の玄関を華やかに彩ってくれたことでしょう。親子で作った門松を見ながら会話に花を咲かせ、笑顔で新しい年を迎えてくれたことを想像すると、こちらも温かい気持ちになり、今年も笑顔溢れるわんぱく教室に！と気持ちが高鳴ります。

新年初めのわんぱく教室は、元氣いっぱいお正月遊びでスタート。コマや羽子板、たこなど昔ながらの伝承遊びを親子で作り、ゆったりと楽しみました。はじめて羽子板で遊んだという子どもさんもいましたが、保護者の方も初めて遊んだという声も。昔ながらの遊びを親子と一緒に楽しみ、笑顔が溢れた一年のスタートとなりました！さあ、今年のわんぱく教室もわんぱくにたくましく盛り上がっていきます！

新しい年を笑顔で迎えることができたこと、嬉しい思いでいっぱい！この一年子ども達も保護者の皆さんも、そして職員も、みんながたくさんの笑顔溢れる年になりますように！

法人設立30周年を迎えるにあたり 「無認可施設」つくしんぼ園「創設前後」

伊都・橋本圏域の無認可施設「つくしんぼ園」の活動がスタートしたのは、1994年（平成6年）きのかわ養護学校（現きのかわ支援学校）や地域集会所での土曜保育でした。翌1995年（平成7年）に旧高野口町（現橋本市）の伏原教育集会所で週5日の毎日保育がスタートし、2007年（平成19年）に、社会福祉法人桃郷がその運営を引き継ぐことになりました。今回は、無認可施設「つくしんぼ園」の運営に携わった方々に当時の運営についてお伺いしました。つくしんぼ園設立に参加した皆様は、定年退職後も「すべての子どもたちの豊かな発達」を目指して福祉の仕事に従事し活躍されています。

- 出席者 小林 正尚様（元きのかわ支援学校教員、きのかわ福祉会自立訓練シャイン支援員）
木村 晃子様（かつらぎ町保健師）
松本 妙子様（元無認可つくしんぼ園園長、泉南市相談支援専門員）
藪本 弘子（元橋本市保健師、統括部長）
植田 京子（元かつらぎ町保健師、つくしんぼ園園長）
高雄 尚子（元県栄養教諭、つくしんぼ相談支援室相談支援専門員）
司会 船木 栄子（常務理事）

司会：常務理事の船木です。日中お疲れの中、ご出席ありがとうございます。今日をつくしんぼ園の草創期のお話ということで、懐かしく楽しく思い出を語っていただければと思います。それでは、まず自己紹介からお願いします。……

松本：私は、つくしんぼ園無認可当時

は保育士で、途中から園長をさせていただいていました。現在は、泉南市子ども総合支援センターにある相談支援事業所「くるる」の相談支援専門員をしています。

小林：当時、きのかわ養護学校（現きのかわ支援学校）の教員をしており、運営委員会委員長をさせていただいて



藪本

いました。現在は社会福祉法人きのかわ福祉会で自立支援事業の支援員をしています。

植田：当時はかつらぎ町役場の保健師をしていました、療育施設設立運動の中では事務局長の役割を皆と一緒にさせていただきました。現在はつくしんぼ園園長を務めています。子どもたちの生き生きとした姿を毎日見て、當時を思い出しながら、当時の活動が今に繋がり、つくしんぼ園があること、本当に良かったなと思っています。

高雄：当時はかつらぎ町立大谷小学校で栄養教諭の仕事をしていました。運動の中では事務局の一人として運営資金の工面などをしていました。今はご縁があつて、法人が運営するつくしんぼ相談支援室で相談支援専門員をしています。当時が今に繋がって働けている環境に幸せを感じています。

藪本：私は合併前の高野口町役場で保健師をしており、療育施設設立運動の中では主として会計を担当していました。退職後は法人運営のつくしんぼ園園長を5年、現在は法人の統括部長を務めています。

木村：かつらぎ町保健師で現在も在職中ですが、今は新型コロナウイルスのワクチン接種に携わる業務が中心で当時が懐かしいです。当時は事務局として後援会への加入、つくしんぼ通信の発行、会費の納入通知、バザーの段取りなどの事務をしていました。

司会：皆さんのお話を聞きまして、つくしんぼ園があつて良かったという思いが伝わります。当時、皆さんはお仕事をしながらの運動で大変だったと思いますが、伊都・橋本圏域に療育施設「つくしんぼ園」を立ち上げる運動にどうしてかかわるようになったのか教えてくださいませんか。

木村：当時、植田さん、高雄さん、藪本さん、石橋先生（元笠田中学校支援学級教員）と発達を学ぶ勉強会をしていました。現在、社会福祉法人一麦会理事長の山本耕平先生が勉強ばかりではなく、実践で療育をしてはどうかと言われたのがきっかけです。当時、植田さんと岩出市にある無認可施設の

たことがありました。悩んでいろんな学習会に行く中、伊都地域で教職員組合主催の両角正子先生（元立命館大学教授）の発達講座があり、そこで熱心に聞いておられる石橋先生がおられ、学習会をしないといけないという話になり、1991年（平成3年）に保健師、教員、栄養士、保護者らによる勉強会を始め、山本耕平先生にも教わることでありました。勉強会の中で、保護者の方から次の世代に同じ思いをさせたくないで、伊都・橋本圏域に療育施設がほしいとの要望もありました。その当時、那賀圏域には「子どもの豊かな発達を支える会」ができていましたので、石橋先生につないでいただき、1992年（平成4年）に伊都・橋本圏域にも「子どもの豊かな発達を支える会」ができ、1994年（平成6年）に土曜保育を開始し、1995年（平成7年）に毎日保育を旧高野口町（現橋本市）の伏原教育集会所で始めました。当時は、人のつながりや保護者の思いに後押しされて、大変だとは思わずに事務局会議に参加していましたが、藪本さんが言われるように、自分の家族のほうには目が向けられていなかったかもしれません。



松本様

989年（平成元年）に赴任しました。私の中には全く障害児教育の知識がなく、先輩や周りの人から発達の話を聞く中で、少しでも勉強できたらいいなという気持ちでした。谷川先生（元きのかわ支援学校教員）を中心に土曜保育を始めるのに手伝ってくれないかというお声をいただきました。土曜保育の準備や子どもたちとも遊ばせてもらいました。毎日保育が始まろうとする際に、運営委員会の委員長を依頼され、最初はお断りをしていたんですが結局お引き受けすることになりました。発達のことをしっかりと学ばないといけないという気持ちになり、勉強会にも参加しました。つくしんぼ園がなければ、一教員として仕事を終えていたかもしれません。自負ではないですが、運動が自分の力になってると思えます。つくしんぼ園にどれだけ貢献できたかわかりませんが、自分の知らないことを経験させていただいたという気持ちです。

持ちです。

松本：私は、仕事をもちながらつくしんぼ園に関わってくださる方々の思いが痛いほどわかる現場にいましたので、とにかく分からないことが多く忙しかったのですが、現場に繋いでくださる保健師さん達の思いに応えたいと思いました。保育で母さん方の信頼を得ないと次に繋がらないと、ひやひやすることはありましたが、やりがいがあり、毎日が無我夢中でした。挫折も一杯感じていて、自信を失い、旧高野口町役場に行き、藪本保健師に相談し励まされることが度々でした。でも、子どもたちが輝いていたので、それが力になったと思います。

司会：ここにお集まりの皆さんは専門職でお仕事をしながら、お母さん方の涙を見て、そして発達について学びながら療育施設が必要だと感じられたんだなと思いました。運営が始まってから困難なことが多くあったと思います。運営面等でご苦労されたことお聞きできますか。

植田：とにかく運営するお金がない、でも、いい保育をしないと行って良かったと思っていただけはない、ここにきて笑顔になることがなかったら長く続かない、それを守っていくには、専門職の保育士を雇わないといけない、そ

れにはお金がいるということで、お金の工面の話は常にしていました。夜に開催する運営委員会でお父さん方にも寄っていただいた中、子どもの笑顔を守ってほしいと、保護者会のお父さん方が各町に出向いて直談判をして補助金を獲得していただいたこともありました。子どもの出席が少ない時は、人件費を抑えるため、保育士さんに帰っていただいたこともありました。

小林：昼は仕事がありましたので、昼間の保育の様子はほとんど見ることがなかったのですが、運営委員会委員長として、保護者の方の意見を聞くなかで、保護者の方のご意見と現場の保育との兼ね合いが必要でしたのでその調整が中心でした。周りの人が色々助けてくれ、様々な意見を聞くことができ、自分自身も高めることができました。

藪本：運動当初から会計担当で資金面を支えてきたのですが、本当にお金がありませんでした。保育料も当時で月額1万7千円の高い料金を保護者から頂いていました。バザーで「ネギ焼き」などを売り100万円の収益を上げて、資金繰りに一息つけるという状況で、毎月保育士の給料を払うのが一杯の自転車操業でした。給食調理員を雇う資金がなかったため、お母さんたちが交替で給食を作りに来てくださり、皆に支えられた運営でした。また、

つくしんぼ園の運動は旧高野口町が舞台でしたので、療育施設設立の運動は上司から仕事かボランティアなのかと聞かれるなど、運動を進める中で、町職員としての立場と保健師としての思いなど大変気を遣いました。

木村：藪本さんは役場に勤めているのに大丈夫かなと心配していました。私にはとてもできないという感じがありました。一人にバザーの出品をお願いし、また、当時の教職員組合の先生方につくしんぼ後援会に一口1,000円で加入していただき、年3回のつくしんぼ通信の発行をしました。原稿はお母さんや保育士・保健師にお願いし、私は仕事を終えた自宅で皆に届いたらという思いで通信を作成していました。当時はパソコンがなかったのでガリ版印刷で発行し、教職員組合の先生方に納入のお願いと一緒につくしんぼ通信をお渡ししました。教職員組合の先生方には大変お世話になりました。お金のことで、藪本さんと植田さんとで運営委員会が殺伐となり3人でよく喧嘩をしましたが、その時に小林先生が雰囲気を持ち上げてくれたので、すごく助かりました。当時のバザーはバブルの時代で出品の品物が豪華で、最終売り上げが100万円を超えたときはびびりました。

小林：支援学校の体育館が一杯になりました。

藪本：土曜保育も含めきのかわ支援学校がよく貸してくれたなと思います。

高雄：定期的に地域の祭りや産業まつりに出店して、つくしんぼ園の事を多くの人に知ってもらいながら資金集めをしようということになり、材料は小麦粉、ネギ、天かす、卵1個と簡単に作れる「ネギ焼き」はどうだろうかと考えました。きのかわ支援学校での夜の運営会議で試作し「これなら美味しいうし、きつと売れるな」ということで、つくしんぼ園の「ネギ焼き」が生しました。

つくしんぼ園の保護者会の皆さんが今でも「ネギ焼き」を受け継ぎ、つくしんぼまつりで焼き続けてくれていることを知り、驚いたのと同時に嬉しい気持ちになりました。

司会：保育面で苦労されたことはありますか。

松本：私が勤めたのは1996年（平成8年）1月からなので、毎日保育が始まってからです。伏原教育集会所をお借りしていましたが、保育は本物を目指して行きました。ひまわり園にも研修に行きましたが、研修をしたからすぐできるかと言ったら難しく、一人で

できることも限られていますので、保育士間の意思共有で時間がかかりました。山本志保美先生（元ひまわり園保育士）に定期的に保育指導に入っていたいただきましたし、施設の使い方、子どもたちが6時間半を過ごす生活の流れ、保育内容についてすごく吟味しました。

子どもたちが帰った後、夜遅くまで反省やリズムなどの打合せをするなど、目の前の保護者の方が給食を作って下さったり、バザーをされる姿を見て力を貸していただければかりで、弱音を吐いたら駄目だなどと思う保育実践でした。

司会：運営面では、資金の調達には行政からの支援がないことから大変だったと思います。「ネギ焼き」もつくしんぼ園では定番です。保育も大変だったと思いますが、「みんなの願い」（月刊誌）で素敵な保育をしているという評価をいただいたのを覚えています。伏原教育集会所での12年間の保育を経



小林様

て、2007年（平成19年）に社会福祉法人桃郷に運営を移管することになりましたが、その当時の決断や悩みを教えてください。

植田：私は、このまま抱えていくには限りがある、心の中では社会福祉法人桃郷への移管という考えはありましたが、でも、運営委員会の皆と話をする中では、伊都・橋本圏域でつくしんぼ園を守っていきたいという願い、また、伊都消防組合のように公的に保障されない駄目という思いがありました。ただ、その中で法整備も変わり、2003年（平成15年）に措置制度が支援費制度に転換され、2005年（平成17年）には障害者自立支援法が公布されました。そういう状況で、どうすれば継続できるのかというのが最後の判断だったと思います。また、皆の心の中に「しんどい」という思いがきつとあったと思います。国の制度が変わる中で果たして持ちこたえていけるのか、最後に皆で話をして、受けてもらうとしたら桃郷しかないというところは一致していたと思います。ただ母体を大きくするだけではなく、伊都・橋本の「子どもの豊かな発達を保障する」願いを貫いてくれるのは桃郷しかないという思いでした。

小林：このままだったら、つくしんぼ園がなくなってしまうという危機感が

あったと思います。その中、資金面で援助する団体もあり話し合いもしましたが、その話も消えてしまい、法人運営になればどうなるか、法人運営以外ではどうなるか、メリット・デメリットを考えつつ話し合いを進めてきて、結果、法人運営がいいとなりました。じゃあ、次にどこの法人の傘下になるかという話になりました、桃郷にお願ひするという事になりました。本当のところは自分で運営していきたいという気持ちがありました、運営にあたり問題が解決しないのであれば、桃郷の支援を受けるといったことになったと思います。

.....
藪本：その時期は、市町村合併が目前に迫っていて、私たち職員自身もどうなっていくのか分からない中、このままで運営が持ちこたえていけないのか、運営委員の中でも責任を持ってないという意見もありました。また一部事務組合立でつくしんぼ園を運営してほしいと、保護者が各市町村に何回もお願ひに行ってくれましたが、それが無理だということもわかり、つくしんぼ園を続けていくには、桃郷で引き受けてもらうしかないという結論だったと思います。

.....
司会：いろいろな思いがある中、法制度が変わり、また市町村合併の流れなど世の中の流れが大きく変化し、ひと

り一人ではどうしようもないというのがあったと思います。伊都・橋本圏域で作り上げたものは伊都・橋本圏域で守りたいという気持ちがあっただろうし、苦渋の判断だったと思います。それでは、最後につくしんぼ園設立の草の根運動に関わり得たこと、そして、これからのつくしんぼ園、社会福祉法人桃郷への思いをお話しいただけるでしょうか。

.....
松本：私は桃郷の傘下になったら絶対勤まらないと思っていて、無認可のつくしんぼ園の保育士で終わるんだろうと寂しく思っていました。でも、桃郷に勤めさせていただくことができ、福祉・保育・療育をたくさん学び、自分の人生の指針をいただき自分自身も変わりました。今、子どもたちやその保護者を取り巻く環境が変化しています。お母さん方は子育てをどうしたらいいか不安で悩み、YouTube等で子育ての仕方を見るなどしていらっしやいます。つくしんぼ園に行けばしっかりと相談のつてくれる、つくしんぼ園に行けばお母さん方が守られる、一緒に考えてくれる、そういうつくしんぼ園であってほしいと願います。

.....
木村：伏原教育集会所での初めての卒園式のお母さんの挨拶が忘れられません。妊娠をされておられるお母さんが「安心してこの子を産むことができ

ます」という挨拶をされるのを聞いて、やっとお母さんとの約束が果たせたなあ、夢がかなったなあという瞬間でした。今、つくしんぼ園に入っていくお母さん方が、普通に子どもを産んでいらっしやる姿を見て本当に嬉しいなという気持ちになります。つくしんぼ園の運動を通して、子どもの発達だけではなく、人と人がつながって社会を変えて行く力になるということ、故田中昌人先生（障害児教育学者・人間発達研究所初代所長）の発達講座で学んだことが心に残っています。どんな世界になっても、その気持ちを忘れずに、自分がこれから仕事を辞めたとしても、地域の方とつながって色々なことを考えていきたいと思っています。

.....
藪本：運動の中で、療育施設を作ることで困難なことは多かったです、仲間や保護者の力と情熱でできるという確信が持てました。ただ、それを維持していくことの困難さ、継続することの難しさをこの運動の中で感じました。

その困難を乗り越えていく中で絆も強くなり、保護者の方がバザーやつくしんぼ園の運営に協力してくれ、現在でも桃郷の事業所で、調理員、添乗員、運転手として働いて支え続けてくれています。安い月給でも働き続けてくれた当時の保育士さんたちは今も桃郷の保育に関わってくれています。そういうかけがえのない気持ちや仲間を得た



植田

.....
 ことは私にとって一番嬉しいことです。つくしんぼ園ができて良かったと思ってくれていることの証でありますし、それが成果だと思っています。今後の桃郷、つくしんぼ園に望むことは、20年前とは社会、制度、生活環境等々が変化している中、それに柔軟にしながらに添っていく組織であってほしいです。昔のことも大事ですが、今が一番適切な方向で導いてくれたらいいなと思っています。

.....
高雄：草の根運動に関わっていなかったら、保護者の思いを聞く機会がなかったと思います。お母さんの願いや思いに応えたいというだけで頑張れた気がします。運動に参加してきたことが、私の栄養教諭として働く土台にもなり、ひとり一人の子どもを大事にする、子どもの願いを大切にすること、大事なこと、目が向くようになり、大事なこと、そこだと思つて仕事をしてき

たので、教職員から他の栄養教諭とは見るところが違うと言ってもらえるのは、つくしんぼ園の運動に関わってきたからで、自分自身の幅も広がったように思います。今、あすなる教室で相談支援の仕事をしています。4月に入園した子どもが半年もたつと、歩くのが苦手だった子が歩けるようになって、言葉が出にくかった子がしゃべれるようになってきたり、目が合えばすごい笑顔で返してくれるようになって、こんなにも子どもが変わるんだと、実際の保育の場で働いて初めて知り、早期療育の大切さを改めて実感しています。当時、療育が必要だと頑張ったことは正しかったと思うのと同時に、桃郷の職員の皆さんがあれからもずっと繋いで頑張ってくれたからという感謝の気持ちでいっぱいになっています。療育を必要とする子どもがいる限り、桃郷がもっと発展してより良くなつてほしいと思います。私も相談支援の仕事をしながら、お母さんの思いや願いを聞き、まだまだ制度が不足していることもあるので、お母さんの気持ちに寄り添いながら思いをできるだけ叶えられるように声をあげていきたいと思っています。



高雄

て良かった、できて良かった、本当にこの地域の財産だと思います。運動に関わらせていただき、人との出会いがあり、同じ思いがあり信頼できる人ができたことは自分の人生の宝物になっています。私自身の生活の中で、チャレンジすること、やれるんだという気持ちが自分の中に持てました。つくしんぼ園の子どもたちも、何かやってみよう、やってみようという小さい成体験をしていくことと全く同じことだなと思います。子どもたちが今日もいい顔で帰ってくれる、そういう目でも子どもたちを見られることは良かったなど毎日感じています。反面、自分の力のなさを感じていて落ち込む時は、認められるというのは大切なことだと感じています。今、インクルーシブという流れがありますが、キラキラした子どもたちの笑顔を失くしたら駄目な発達を保障することをこのまま続け

ていく必要があると思っています。.....
小林：障害児教育に関わって初心者だったのですが、つくしんぼ園に関わらせていただくことによつて、自分を高めさせていただきました。それで、お返しをすることが少しあったかと思えます。人生の半分34年間障害児教育に携わつてきて、それが礎になって、今も、きのかわ福祉会の自立訓練事業所にいますが、達成感を味わう、人から認められた嬉しさ、それを大事にしたと思います。今は支援学校では卒業したら仕事、仕事の方向に向きがちですが、仕事を育成するのではなく、人を育成する、そういう気持ちでも今も取り組んでいます。人を育成する中で、自分ができた喜びは笑顔で返ってくると思います。私は今の事業所でそういう職員を育成していかなければと思つています。桃郷とは同じ法人として、お互いに協力して、交流や意見交換をしていきながら、人として豊かに過ごせる人を育てていければと思っています。

.....
司会：話は尽きないですが、運動があつて今の自分があるということですね。思い出話があることが一杯あります。また、次の目標に向かって進んでいけたらと思います。本日はお疲れのところありがとうございます。



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

障害者週間 広げねネットワークを開催

昨年12月の障害者週間に合わせ、岩出紀の川市圏域の事業者やそのご家族、地域の方からなる実行委員会を中心に、「障害者週間広げねネットワーク第22弾」が打田生涯学習センター等で開催されました。今回は、「みんなのねがいを語る会」、「森永ヒ素ミルク事件を知っていますか?」、「つながろう研修」、「広げねアート展」を開催し、利用者の子どもの作品の展示などを行いました。実行委員会としてご参加いただいた保護者の方から次のようにご感想をいただきました。



広げねアート展



つばみ園の子どもたちの出展作品

障害者週間広げねネットワーク に参加して

広げねネットワーク係は12月の障害者週間のイベントに向けて月1回会議があります。初めて会議に参加した時は事業所の方や家族会の方がたくさんいて驚きました。慣れない会議という雰囲気にとっても緊張しましたが、人前で話すことが苦手でもとまりのない私の話にもじつくと耳を傾けてくださいました。会議ではイベントについての話し合いだけでなく、当事者、家族、事業所、様々な立場の方からそれぞれの想いやどんなお仕事をされているかなどお話を聞く機会があり、知らなかったことをたくさん教えて頂き、とても貴重な時間を過ごすことができました。

また、広げねネットワーク実行委員会は障害のある人や生きづらさを感じている人が地域でこころ豊かに暮らせるように、たくさんの方に知ってもらい、理解してもらえよう活動されていることを知り、地域にこういう想いを持って活動して下さる方がいることが嬉しくて、親としてとても心強く感じました。

広げねアート展では一つ一つ丁寧に作られた作品から気持ち伝わってきて、作った人のことを思い浮かべてみたり、とても工夫されていてどんな風に作ったのかな?と興味をそそられたりと、見ていてとても楽しかったです。

これからもこうした楽しいイベントを通して、難しく考えるのではなく、地域にはいろいろな人がいて、楽しく自分らしく暮らしているというのをたくさんの方達に知ってもらい、身近に感じてもらえると嬉しいです。

(つばみ園保護者 児玉 彩様)

人権研修を実施 子どもの貧困問題入門

さる10月26日(水)、「子どもの貧困問題入門」と題して、和歌山大学教育学部准教授の越野章史先生をお招きし人権研修を実施しました。お話の中で、日本がGDP世界第3位であるにもかかわらず、子どもの貧困率が13・5%という高



さであること、つまり、7人に1人、1学級に4〜5人が貧困家庭ということになり、G7の中では、アメリカに次いで高い数値になるそうです。貧困が子どもに与える影響は大きく、進学機会や就職機会が限定され、結果、貧困は連鎖し、再生産されてしまいます。本人の意思ならともかく、「大学に行けない」と言わざるを得ない状況は貧困が与える影響の一つです。先生はこうした状況の対策として、対処療法、根治療法をあげられました。対処療法とは、子ども食堂などに困っている人・家庭への支援のこと、根治療法とは、貧困そのものの根絶で、子育てにお金のかからない社会のことです。まず、私たちが貧困問題に対してアテンナを高くして理解していくことが必要だと思いました。

(法人事務局長 竹中俊和)

発達講座⑦

発達を見つめて

つくしんぼ園

発達相談員 山本 翔太

前回(第6号)は2、3歳頃の発達の世界が語られました。その時期に対する世界を豊かに広げ、やがて4歳半ば頃になると、「シナガラ〜スル」という、異なる2つの動作を1つにまとめあげた活動スタイルを発揮しはじめます。たとえば、身体を使った活動では、「片足を上げ」ナガラ「前に進む」という2つの動作をまとめあげて、ケンケンができるようになります。手先を使った活動でも、片手でハサミを使いナガラ、もう片方の手で紙を回すなど、両手を協働させた自由度の高い操作が可能になります。ことばの面では、日常生活の事を中心に、話しことばでの双方向的なコミュニケーションの形が広がり、それだけでなく、「ダカラ〜スル」、「ノトキハ〜」など、ことばで複数の事柄を結びつけ、物事を考えるようになります。さらには、仲間を求める気持ちが高まり、友だちとルールを共有して楽しんだり、役割分担したごっこあそびを展開しはじめめるなど、あそびの質が高まるようになっていきます。

木下孝司さん(神戸大学)によると、4歳から5歳にかけて、「心のなかでつぶやきながら、ことばを使って考える力の育ち」が見られるようになるなど、「思考をめぐらせる」力が広がってくる時期になります。そのようなことも、先ほど述べた様々な力の発揮に大きくつながっているのかもしれない。

また、「思考をめぐらせる力」は、内なる自分自身と対話することにもつながります。前回の2、3歳頃の自我で、「大きくなりたい自分」と「なれるか不安な気持ち」との間で気持ちが揺れ動く繊細な姿がみられること。だからこそ、周囲がそのような心の揺れ動きを受け止め、励ます関わりが大切であることが述べられています。そのような丁寧な寄り添いにも支えられ、だんだんと自信を積み重ねていく中で大きくなった自分を誇りにするなど、自我を膨らませていきます。そこに、「思考をめぐらせる力」が広がってくることで、心の中で自分自身を励ますようになり、困難な事に直面した時にも、「不安ダケレドも頑張ってみよう」と、揺れる気持ちに自ら折り合いをつけようとするようになります。つまり、自制心の育ちへとつながります。

豊かに自制心を育むためには、自分自身でじっくりと思考をめぐらせるための「間」が大切になります。だからこそ、大人にとっては子どもを信頼し、一歩下がって見守る「間」を意識したいところです。また、仲間との関係の中でお互いを意識しあい、思考をめぐらせてまとめあげた思いを伝えあうことができる集団づくりも大切にした点です。

社会福祉法人桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つばみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市首屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター			
	〒649-6222 和歌山県岩出市岡田649番地2	☎0736-67-8891	☎0736-67-8892
つくしんぼ相談支援室(つくしんぼ園に併設)			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

～ひまわり園にサンタがやってきた～



今年も「ひまわり園」にサンタクロースがやってきました。今年はサンタクロースだけでなく、ピーチアンサンブルや「ぐりとぐら」も遊びに来てくれて、にぎやかなクリスマス会となりました。コロナの影響で保護者の方への制限があり、例年のような形とはなりませんでしたが、そのような中で子どもたちは、歌を楽しんだり、ダンスを踊ったりと伸び伸びと楽しんで過ごしました。
(ひまわり園 仮屋成珠)

2022年度社会福祉功労者 厚生労働大臣表彰を受賞

多年にわたり社会福祉に功労のあった者として、当法人から船木栄子（常務理事）が厚生労働大臣表彰を受賞しました。

編集後記

今年度のももさと通信も今号が最後の発行となります。3回に渡っての企画となった各施設の創生期を語っていただく座談会企画、とても学ばせていただくことの多い内容でした。私も数年前に家庭で子どもを育てる立場となりました。初めての育児はわからないことへの不安と24時間365日新しい命を守っていくことのプレッシャーと戦う毎日でしたが、自分の

住む地域には、どんな子どもたちもみんな健やかに育っている土壌や育児のサポートがあることを知っていたので、大きく構えることができず、子どもを育てることに関係するたくさんの方々が、そうした土壌を築いてきて下さったおかげなのだと感じました。私も微力ながらそういった一助となれるよう精進していきたく思います。
(栄子)

管理者からの施設紹介⑦

児童発達支援事業『くまの子教室』

管理者 笠井 衣里

☆施設の概要

沿革：2004年10月開設
住所：伊都郡かつらぎ町妙寺146-2
定員：10名
利用者：10名
対象年齢：就園前（0歳児～2歳児）
保育時間：午前9時～午前11時30分

☆大切にしていること

親子で期待と不安いっぱいの中、初めて子ども達が出会う集団です。子どもだけでなく、保護者にも寄り添いながら、丁寧な保育を目指しています。

遊びや初めての体験を保護者の方と一緒に経験することで、“たのしい”の気持ちをたくさん積み重ねてもらうこと。そして、自分から「やってみよう」「わくわくと期待をする気持ち」を育て、主体的に活動する中で、自信や達成感が芽生える環境づくりも心がけています。

ひとりひとりのペースに合わせて親子で、たくさん経験を重ねると共に保護者と保育士、地域の保健師さん、周りの関係者と連携し、共に子育てに積極的に参加できる保育を展開していきたいと思っています。

☆保育内容

火曜日は、ゆうゆうコミュニティセンター。木曜日は、あすなる教室での、親子保育です。

お散歩、リズムで、身体を使って楽しむ中で、しなやかな身体づくりと丈夫な身体作りができます。また、お散歩でねこじゃらしを見つけてくすぐりを楽しんだり、大きな葉っぱでおばけに変身したりと自然のもので遊んだり、地域の方のご厚意でのおいもほり、みかん狩りなど、自然とたくさん触れ合うことで五感をくすぐり、発達を促しています。また製作を通して、素材の変化を楽しみ、道具を使う経験をする機会となっています。あつまりでは、絵本を選択し見たり、自分が選択したものでないと怒って泣いたり、手遊びやお話でアピールなどしたり、恥ずかしがったりと色々な気持ちを出し、自然と主体的になるように心がけています。

毎週火曜日は、自分たちでやかんからコップへお茶を注いで、そっと運ぶ経験もしています。おうちでは、まだコップで飲んでいない児も初めてコップでお茶を飲んだり、ままごとでなく実際に自分でやかんから注いだり、最初はお母さんと一緒にコップを運んでいた児も少しずつ上手になり、一人でそっと運べるようになった児もいます。遊びだけでなく、生活の経験も取り入れています。

毎回の積み重ねで、遊びも生活もくまの子教室で経験したことをおうちでもしたい気持ちができてきているようです。

初めての集団を経験し、初めてのお友だち、初めての経験と初めてがたくさん詰まったくまの子教室。子ども達の初めてに携われて一緒に経験し、共に成長できることが嬉しいです。やってみようという気持ちを積み重ね、子ども達の次のステップへと大きく羽ばたけるようになっていきたいと思います。